



日本計算機統計学会

Japanese Society of Computational Statistics

NEWS LETTER

〒101-0051 東京都千代田区神田神保町3-6 産実書院ビル5F (公財)統計情報研究開発センター内
Tel/Fax: 03-3234-7580 E-mail: office@jcs.jp URL: http://www.jcs.jp/

No. 74
2021. 10. 15



第 35 回シンポジウムのお知らせ

第 35 回シンポジウム実行委員長
慶應義塾大学 星野 崇宏

日程: 2021 年 11 月 27 日(土), 28 日(日)

開催形式: ハイブリット形式(シンポジウムを現地開催とし、
補助的にオンライン会議システムを用いる)

会場: 慶應義塾大学 三田キャンパス 南校舎・北館ホール・
第一校舎

〒108-8345 東京都港区三田 2-15-45

JR 山手線「田町駅」、営団地下鉄三田線「三田駅」より徒
歩 10 分

URL: <http://jcs.jp/conf/sympo35/>

日本計算機統計学会第 35 回シンポジウムを、2021 年 11 月 27 日(土)~11 月 28 日(日)に 慶應義塾大学 三田キャンパス(東京都港区)にて開催させていただくことになりました。

本シンポジウムでは、特別講演を特別企画として開催いたします。特別講演では、東京大学大学院工学系研究科の和泉潔教授に登壇いただき、ビッグデータを用いた経済状況やコロナ禍での行動変化の可視化等に関するお話をいただきます。他にも医療データ解析等の特別セッションを企画しております。ビッグデータ時代が到来し、統計科学・データサイエンスの研究者と実務家との研究交流がますます重要になってきております。本シンポジウムがこのような時流に合わせた研究交流の場になることを期待しております。

今後の新型コロナウイルス感染症(COVID-19)の収束は見通せませんが、慶應義塾大学では職域接種を先行して完了しており、現時点では大学側としては三田キャンパスでの実施が可能となっております。現段階ではシンポジウムを現地開催とし、補助的にオンライン会議システムを用いる、いわゆるハイブリッド会議の予定です。政府の要請や緊急事態宣言の発令などがあった場合には全面オンラインとなることも見据えながらも、今後もこのような事態が継続されることを踏まえ、ウィズコロナ時代のシンポジウムの先駆けたるべく、な

るべく様々な研究者と実務家が活発な議論が可能となるように万全の対策で臨ませて頂ければと存じます。

これまでどおり充実したシンポジウムとなるよう全力で準備をすすめる所存ですので、多くの皆様のご参加・ご講演を心よりお待ち申し上げます。

発表申込・参加登録受付開始	2021/10/01(金)
発表申込期限	2021/10/29(金)
発表論文原稿提出期限	2021/11/05(金)
早期納入割引適用期限	2021/11/05(金)

お問い合わせ先:

日本計算機統計学会 第 35 回シンポジウム 事務局
〒108-8345 東京都港区三田 2-15-45

慶應義塾大学経済学部

星野 崇宏

E-mail: sympo35@jcs.jp

※E-mail にてお問合せください。

第 35 回大会の報告

第 35 回大会実行委員長

あすか製薬株式会社 藤澤 正樹

日本計算機統計学会第 35 回大会は、2021 年 6 月 3 日(木)~4 日(金)の日程で別府国際コンベンションセンター(大分県別府市)にて開催されました。大会参加者は 185 名であり、発表は特別講演 2 題、特別セッション 15 題、一般講演 16 題、学生研究セッション 15 題、スタディグループセッション 8 題、ソフトウェア・デモセッション 2 題の合計 58 題の多くのご発表を賜りました。現地とオンラインでのハイブリット形式での開催となりましたが、盛会のうちに終えることができました。

大会初日の特別講演では、「ダイバーシティ温泉 別府の魅力」のご演題で、別府が多様な温泉文化を築いた歴史的な背景を別府大学 飯沼賢司先生にご講演いただきました。別府温泉が道後温泉と地下でつながっていて、日本最古の泉源であることの実実に驚愕しました。温泉が湯治の目的だけではなく、日常生活の場面においても地獄蒸しや共同風呂

として幅広く利用されており、別府温泉の魅力に対する気づきを与えてくれました。

大会 2 日目の特別講演では、「新型コロナ抗体検査 PROJECT〜ワクチンについてもだいふ見えてきました〜」のご演題で、横浜市立大学 山中竹春先生にご講演いただきました。抗体にまつわる疑問を日本人データで解消するための研究を開始し、世間の不安を科学的な立場から、自ら収集したデータを用いて証明することの重要性を学びました。科学者としてその勇気ある行動に大変に刺激を受けました。

また医薬特別セッション「Model-informed Drug Development」及び「がん対策におけるマイクロシミュレーションモデルの活用」を開催しました。産官学より少なくとも各1名の演者に講演いただきました。いずれのセッションも臨床研究・医薬品開発に携わる医学統計の研究者にとって、貴重な交流の場面であり、議論を深める良い機会であったと思います。

また特別セッション「IASC-ARS2022 特別セッション」及び「行動科学関連データ解析」を開催しました。IASC-ARS の国際セッションでは ARS の前期会長と次期会長からもご講演いただき、先進的な話題が議論されました。行動科学関連データ解析のセッションでは、筋制御や視覚に与える影響に対するモデル構築の話題が議論されました。

懇親会は、新型コロナウイルス感染拡大の影響により、残念ながら中止といたしました。現地に参加いただいた方は、その空いた時間を利用して、温泉をゆっくり楽しんでいただけたと思います。

本大会の開催にあたり、座長、ご講演をお引き受けいただいた方々、ご発表をいただいた方々、ご協賛をいただいた企業の方々、そして、ご参加いただきました皆様に、心よりお礼を申し上げます。重ねて、ご支援いただきました別府国際コンベンションセンターの皆様と大会実行委員の先生方に深く感謝申し上げます。本当にありがとうございました。

学会賞受賞者より

学会賞を受賞された方よりコメントを頂きましたので、ご紹介いたします。

「学会賞」を受賞して

株式会社スタットラボ 石橋 雄一

このたびは大変名誉ある賞をいただき大変光栄なことと感じております。受賞の理由は会長や副会長などを務めたことなどにありますが、無事務められたのは会員の皆様のご協力のおかげであり、皆様には大変感謝いたします。

本学会と私との最初の関わりは、1986 年 10 月に大阪の富士通関西システムラボラトリで開催された学会の設立総会でした。当時、私は NEC に勤務しており統計解析ソフトの開発を担当しており、岡山大学ともつながりがあった関係で、故脇本和昌先生から発起人になるように依頼され、設立総会に出席した次第です。

翌年には大会とシンポジウムが開催され、2 年目の 5 月には NEC で第 2 回大会開催を担当することになりました。当時、NEC には日本電気工業技術短期大学で社員が教育を受ける制度があり、そこを日本電気福岡ビルを衛星で中継して行うというものでした。まだ、インターネットがない時代でしたので、かなり画期的なことでした。大会委員長は短大校長でしたが、実質的には私が実務をやらなければならなかった状況でした。当時は学会にもあまり参加したことがなく、どのようにしたらよいかもわからない状態でした。しかし、すでに大会シンポジウム開催のための運営マニュアルが作成されており、実行委員として学会の先生方にも参加していただいたことにより、なんとか無事大会を運営することができました。

その後、私は独立してスタットラボを設立して、統計関係の仕事をしており、学会の会員としても活動してきました。仕事の関係上、大会シンポジウムや学会誌などでの情報収集や論文発表、会員の皆さんとの交流が非常に重要です。近年、学生研究発表セッションやスタディグループセッションでは、応用分野の発表が増えてきて企業関係者としては大変参考になります。今後、企業関係の会員を増やすには必要なことと思います。

また、2012 年 11 月には東京大学で第 26 回シンポジウムを、2015 年 10 月には沖縄科学技術大学院大学で 30 周年記念国際研究集會を主催させていただきました。ここでも、会員の先生方にも実行委員として協力していただいたことが重要でした。本学会の伝統として、大会シンポジウムの懇親会では美味しい料理を提供するというのが暗黙の了解であり、参加者の楽しみでもあります。第 26 回シンポジウムの懇親会では、完成したばかりの東京スカイツリーを真正面に見ながらイタリアンを、沖縄ではリゾートホテルで沖縄料理を楽しみました。

昨年からは、コロナ禍のために大会シンポジウムはオンラインが主での開催になり、会員どうしの交流が困難な状況になっています。世の中全体もオンラインを使う場面が多くなり、同様の状況になっていますが、この状況を逆手にとってよい成果を上げることができる画期的なアイデアが出ないか期待もしています。コロナ禍が収束して、また以前と同じように開

催でき、地方にも出掛け、皆さんとも交流できる状況が早く訪れることも願っています。

「学会賞」を受賞して

北海道大学 水田 正弘

この度は、日本計算機統計学会賞という大変な名誉ある賞を頂戴し、推薦していただいた先生方、および選考いただいた委員の方々に深く感謝申し上げます。日本計算機統計学会には、発足当時から参加しております。統計関係の学会は複数あり、それぞれ個性的です。本学会の大きな特徴は2つであると私は思います。単なる昔話になることを恐れながらも、個人的な観点から日本計算機統計学会を振り返ってみたいと思います。

学会発足の1986年10月には、北大文学部行動科学科で助手として働いておりました。北大情報工学専攻で博士を頂いており、統計学も計算機も大好きでした。当時は、自分でパソコンを自作してました。ハンダ付けは今でも得意だと自負しています。その時点で4つの統計関係の学会に入会しておりましたが、本学会は1つの学会でコンピュータと統計学を楽しめるということで喜んで入会させていただきました。しかし、学会の本質は、単にコンピュータが好きな統計学を専門とする人の集まりではないとわかるまで少し時間がかかりました。

発足時、中心的に動かされた先生方は、深い見識の下、計算機と統計学を本当に使いこなし、社会に役立てるコミュニティを作ることを目指したと思います。学会発足時の卓越した制度設計は30年以上経過した現在でも発展しながら残っています。それは、企業と大学等との連携、楽しい懇親会の2つの軸だと理解しております。前者につきましては、企業と大学等が交代して会長を務めるなど、両者の協力関係が継続できる工夫がなされています。後者である楽しい懇親会のおかげで学会に参加するという学生も多かったです。時節柄、対面での付き合いは困難ではありますが、状況を適切に考えながら、対面または遠隔での研究発表、現地または遠隔での懇親会を続けることができればと祈っています。

「論文賞」を受賞して

兵庫医科大学 高橋 佳苗

この度は論文賞という名誉ある賞を賜りまして、大変光栄に思います。まずは、論文を審査くださいました先生方に心より感謝申し上げます。また、このような賞をいただきましたのも、本論文の共著者であり、日頃より多大なるご指導を賜って

おります横浜市立大学の山本紘司先生のお陰に他ならず、この場をお借りして心から御礼申し上げます。さらに、いつもそばで支えてくれる家族にも感謝したく思います。

今回の受賞対象となりました3本の論文は、いずれも臨床研究から着想を得たものになります。研究を始めた当時、私は大阪大学医学部附属病院にて臨床研究支援業務に携わっておりました。支援していた研究の多くは症例数の少ない小規模臨床試験であり、例数に制限がある中で何か工夫できないかという思いから、小規模臨床試験のデザインおよび解析に関する研究をはじめました。1本目の論文は、小規模臨床試験における割付手法の性能比較を行ったもので、2016年にUSA・シアトルで開催されたJSCS30周年記念国際研究集会にて発表した内容を論文化し、JJSCSに採録いただきました。

他2本の論文は、臨床検査における陽性的中率および陰性的中率に関するものです。陽性的中率および陰性的中率は、臨床検査の性能を測る代表的な指標であり、陽性的中率は臨床検査の結果が陽性であった対象者が実際に疾患に罹患している確率、陰性的中率は臨床検査の結果が陰性であった対象者が実際に疾患に罹患していない確率です。これらが研究対象となったのは、臨床研究支援に関連して、当時の上司であった山本紘司先生からのご助言で陽性的中率や陰性的中率の検定手法を調査したことがきっかけです。調べる中で、検定手法はいくつか提案されているものの、いずれも中心極限定理が用いられており、小規模臨床試験への適用には問題が生じる可能性のあることがわかりました。そこに着目し、小規模臨床試験に対しても適用可能な正確検定を新たに提案したのが2本目の論文になります。さらに、陽性的中率や陰性的中率に関しては非劣性検定も未だ提案されていなかったため、新たに開発し、3本目の論文となりました。臨床研究支援を通し、実課題を解決するための手法を提案できたという点で、これらは意義深い研究となったと考えております。

最後になりますが、日本計算機統計学会の発展に少しでも貢献できるよう、今回の受賞を糧にこれからも研究活動に励む所存です。今後ともご指導ご鞭撻を賜りますよう、よろしくお願ひ申し上げます。

「奨励賞」を受賞して

東京理科大学 石井 晶

この度は奨励賞という名誉ある賞を賜り、大変光栄に存じます。選出して頂いた委員の先生方をはじめ、学会員の皆様

に御礼申し上げます。今回、私が受賞することができましたのも、学部3年次より筑波大学 青嶋誠 教授から熱心にご指導を頂いた結果と存じます。青嶋誠 教授に心より御礼申し上げます。また、この度の受賞対象論文でも共著者として共同研究をさせて頂いている筑波大学 矢田和善 准教授に感謝申し上げます。さらに、日頃より大変お世話になっている東京理科大学 富澤貞男 教授に御礼申し上げます。

青嶋研究室グループでは、高次元統計解析という従来の多変量解析とは全く異なるアイデアとアプローチによる研究成果を挙げてきました。高次元統計解析は、数万次元という高次元データを、たった数十の標本で解析し、理論的な精度保証を与えます。それだけではなく、モバイルPCでさえもたった数分で計算ができてしまうほど、計算コストが低い方法論を提案しています。高次元データの理論研究では、しばしば、母集団に正規分布を仮定します。しかしながら、実際の高次元データに対し、正規分布の仮定をすることは非常に厳しいと言わざるを得ません。我々の研究グループでは、母集団に正規分布を仮定することなく、汎用性の高い方法論を開発しています。このように「高精度・高速計算・汎用性」を実現する高次元統計解析において鍵となるのは、高次元データがもつ巨大なノイズの解析です。巨大なノイズとなるものは推測の目的に依存して変わり、どの程度に巨大なノイズであるかによって、適切な方法論を選ぶ必要があります。

受賞対象論文である Ishii, Yata and Aoshima (JJSD, 2019)は、高次元平均ベクトルの推測をテーマに、高次元平均ベクトルの一標本検定からその応用までを扱っています。高次元平均ベクトルの推測では、高次元共分散行列の固有値が巨大なノイズとなり、平均に関する情報を埋もれさせます。特に、遺伝子発現データなどの高次元データでは、遺伝子間の強い相関が非常に巨大なノイズになります。受賞対象論文では、厄介で巨大なノイズを除去するため、データ変換の技術を用いて、平均に関する情報を取り出すことに成功しています。巨大なノイズを除去するデータ変換の詳細は、Aoshima and Yata (Sinica, 2018)や Ishii, Yata and Aoshima (JJSD, 2019)をご覧ください。本論文は Springer Nature 2019 Highlights に選出され、非常に多くの方にご覧頂いております。

高次元統計解析には、まだまだ発展する魅力的な研究テーマが多くあります。今回の受賞を励みに、今後も良い研究成果を発表し、研究・教育に尽力する所存です。今後ともご指導ご鞭撻のほど、宜しく願い申し上げます。

フェロー認定者より

日本計算機統計学会フェローに1名の先生が認定されました。認定された方よりコメントを頂きましたのでご紹介いたします。

日本計算機統計学会フェローの称号をいただいて

株式会社クレハ 山縣 清壮

この度は、本学会の大変名誉あるフェローの称号を授与していただきまして、大変光栄に存じます。これもひとえに会長・副会長をはじめフェロー審査委員会の皆様、理事会・評議員会・学会員の皆様、そしてご推薦いただいた方々のおかげであり、皆様に厚く御礼申し上げます。

本学会が発足した1980年代は、広島大学原爆放射能医学研究所(現 原爆放射線医科学研究所)の生物統計学教室においてメインフレームの担当 SE として従事しておりました。そこではBMDP, SPSS の操作法について膨大な英語のマニュアルと格闘したり、FORTRAN 言語を使ってカプランマイヤー曲線や一般化ウィルコクソン検定のプログラム等を作成しておりました。その際に、当時 NEC におられた石橋雄一先生にも統計的なサポートを頂きました。そんな中、九州大学の浅野長一郎先生らが開発されました NISAN System を広島大学に移植することになりました。メインフレームが富士通と NEC の違いがあり、移植作業に大変苦労しましたが、当時九州大学に在籍されておりました栗原考次先生、林篤裕先生のご指導により無事に移植することができました。メインフレームでの算出結果は連続用紙のプリンターでしたが、初めて NISAN System を動作させて、結果がモニターに映し出された時の感動を今でも覚えています。これが計算機統計との出会いだったように思います。

その後、1987年に呉羽化学工業株式会社(現 株式会社クレハ)に移り、医薬統計を中心とする業務に携わることになりました。本学会には、この頃入会させて頂きました。入社後、富士通が開発中であった統計解析パッケージ ANALYST[®]を通じて、開発担当の方々とお話しする中で、大分統計談話会参加の機会に恵まれ、当時の塩野義製薬株式会社の後藤昌司先生をはじめ多数の先生方にご指導いただくことができました。クレハでは約25年間一貫して医薬統計の業務に携わっておりましたが、2012年に株式会社クレハ分析センターに異動し、統計解析受託事業の立ち上げに携わりました。

本学会の活動においては、2013年から2014年まで監事、2015年から現在に至るまで評議員を務めさせて頂いております。この間、2014年11月に大槻成章実行委員長、岡

崎威生副実行員長のもと、沖縄科学技術大学院大学において、日本計算機統計学会第 28 回シンポジウムの事務局長を務めさせて頂きました。シンポジウムの運営経験がなく、不安に思っておりましたが、第 28 回大会(2014 年 5 月)の実行委員に加えていただき、中央大学の鎌倉稔成先生をはじめ実行委員の先生方のご指導頂き、色々なノウハウを学ぶことが出来ました。本シンポジウムでは、多くの皆様方のご参加をいただき活発な議論がなされ、皆様の笑顔が溢れた美ら海水族館での懇親会は、私にとっても大切な思い出になりました。あらためて、ご参加いただいた皆様やご協力いただいた実行委員の皆様へ感謝申し上げます。

2020 年 4 月からクレハに戻り、デジタル化推進プロジェクトで統計教育に従事しており、データを基にした意思決定の重要性を説いて回っています。現在のコロナ渦ということもあり、DX(Digital Transformation / デジタルトランスフォーメーション)という概念が非常に注目されています。そのような状況の中、本学会の役割はますます重要になってくると思います。本学会の発展に微力ながらもお手伝いできれば、と考えておりますので、どうぞよろしくお願い申し上げます。末筆ではございますが、あらためてフェローの称号を賜うことに感謝申し上げます。

学生研究発表賞受賞者より

第 35 回大会で学生研究発表賞を受賞された方よりコメントを頂きましたので、ご紹介いたします。

「学生研究発表賞」を受賞して

東京大学大学院教育学研究科 岡 知樹

この度は日本計算機統計学会第 35 回大会において、学生研究発表賞という栄えある賞を頂き、誠にありがとうございます。審査していただきました先生方をはじめ、本大会の運営に携わってくださった皆様に深く御礼申し上げます。平素よりご指導頂いている岡田謙介先生をはじめ、複数回にも及ぶ発表練習の末、細部にまでアドバイスを下さった研究室の皆様へ心より感謝申し上げます。また、共著者である石岡恒憲先生、Hung Tuan Nguyen さん、Cuong Tuan Nguyen さん、中川正樹先生にも大変お世話になりました。この場を借りて御礼申し上げます。

本研究では「大学入学共通テスト試行調査における記述式問題の自動採点」と題しまして、手書き文字認識と自然言語処理の 2 つの技術を用いた手書き記述答案の自動採点を行いました。自然言語処理の教育応用の一つとして記述式試

験の自動採点に関する研究は多々ありますが、大前提として手書きの記述答案をテキストデータに人手で変換する必要がありました。この課題を克服するため、文字を変換する部分も含めて全て機械に認識させ、手書き記述答案の採点の全自動化を試みました。その結果、全 6 問の記述問題で非常に高い精度で採点が可能であることを確認いたしました。

今後の課題としては、言語処理部分で用いた BERT モデルから予測点数を出力する際に、出力層からの情報の取り出し方を工夫すること、手書き文字認識の認識ミスの採点精度への影響の検証を行うことが挙げられます。

今回の受賞は私自身の研究の非常に強い励みとなりました。教育分野での自然言語処理技術の応用はこれから国内でも大きく発展していく分野であると確信しております。教育測定分野と自然言語処理分野の端くれの者として発展に貢献し、ますます精進していく所存であります。この度は誠にありがとうございました。

「学生研究発表賞」を受賞して

横浜市立大学大学院医学研究科 郷 洋文

この度、このような名誉ある賞を頂戴し、大変光栄に存じます。この場をお借りして本学の山本紘司先生をはじめとするご指導くださった先生方、本研究の可能性をご評価頂きました審査員の先生方、またコロナ禍においてハイブリット方式による開催実現など大会の企画・運営に関わってくださったすべての関係者の皆様へ感謝申し上げます。

本発表では「2 つの評価変数を考慮した flexibility を有するランダム化第 II 相選択デザイン」として、複数の新規候補治療が選択肢として考え得る状況下において、有望な候補治療を見出すことを目的とする既存の臨床試験デザインの拡張についての検討を報告致しました。これまで当該目的における代表的な臨床試験デザインとして、ランダム化選択デザイン、ランダム化スクリーニングデザインなどが提案されています。今回は Sargent and Goldberg による Flexible Screening Design を基礎に、より実臨床的視点の反映のために、汎用性の高い二値変数を評価変数として二つ同時に扱った上で、複数シナリオ下において必要症例数がいずれも症例集積可能性の観点から十分に実現可能性のある数値となることを確認しました。また医学研究においては、統計学を専門としない医師らが共同研究者であることは非常に重要な意味をもち、提案する試験デザインに対する共同研究者の理解を得る必要があります。発表内でも紹介しました必要

症例数算出のための試作アプリケーションがその理解を得るための一つであり、現在この開発を引き続き進めております。この点について本大会において、計算機統計学会の先生方からご指導頂けたことに改めて深謝致します。

今回の受賞を励みとし慢心することなく、新たな疾患が様々な価値を脅かす中において、少しでも社会に貢献できるよう一層精進していく所存です。今後ともご指導ご鞭撻のほど何卒よろしくお願い申し上げます。

「学生研究発表賞」を受賞して

佐賀大学大学院医学系研究科 田尻 涼

この度は日本計算機統計学会第 35 回大会にて栄えある学生研究発表賞を頂きましたことを、大変光栄に存じます。この場をお借りして、コロナ禍で大変な時期にも拘わらず、審査いただきました先生方をはじめ、本大会の運営に携わっていただきました皆様へ御礼を申し上げます。また、常日頃より指導して頂きました川口淳先生、本発表に助言を頂きました佐賀大学医学部附属病院臨床研究センターデータサイエンス部門の方々へ深く感謝申し上げます。

本発表では「異種脳画像解析のためのネスト成分法」という演題で発表させて頂きました。

現在の医療において、CT や MRI などの脳画像を用いた脳疾患の診断が行われています。この診断とは、脳画像における白黒の濃淡変化を疾患特有か否か判別することですが、疾患によってはわずかな変化しか現れず、単一画像では診断が困難なことがあります。これの解決のために、従来、単一機器で行われていた脳画像解析において、近年では異なる機種を統合した解析が行われるようになり、その解析方法の一つとして今回のネスト成分法を提案いたしました。本方法は複数機器より得られた脳画像を数値データとして、2 段階の加重平均を計算し、スコアリングを行います。特に、今回、従来法では考慮されていなかった機種間の相関に対して着目し、新たな重み推定法を導入することで、従来法では得られなかったスコアの抽出に本方法は成功いたしました。このスコアをアルツハイマー病の判別に使用したところ、判別性能の向上に役立つスコアであることが確認されました。これにより脳画像を用いた診断性能の向上や疾患の早期発見に役立つと期待されます。加えて、本方法は重みという形で、どの脳部位、どの機器が疾患に強く影響しているかを視覚的、数値的に把握することができ、臨床医など統計を専門にしない方でも本法の結果を解釈することが可能であると思われます。一方で、本法ではスコアの計算には対象となる機器すべて

の脳画像がそろっていないければなりません。脳画像の撮影にはコストや患者さんへの負担が伴うため、スコアへの寄与の小さい機器を省く、即ち、機器選択を自動で行うような方法の開発が次なる課題と考えております。

今回の受賞を励みにより一層精進していく所存でございます。今後ともご指導ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。

「学生研究発表賞」を受賞して

同志社大学大学院文化情報学研究科 平石 麻友

日本計算機統計学会第 35 回大会におきまして、学生研究発表賞を賜り、大変光栄に存じます。審査委員の諸先生方、ならびに大変な時期に学会開催にご尽力いただきました関係者の皆様へ厚く御礼申し上げます。また、平素より熱心にご指導いただいております宿久洋先生、谷岡健資先生のお力添えにより発表することができました。この場を借りて深く感謝申し上げます。

本研究では、「MM アルゴリズムを用いた WW-SCAD 法の提案」と題し、Wilcoxon-type regression の目的関数に対し、MM アルゴリズムを用いることで、L1 ノルムのパラメータの更新式を既存の 2 乗誤差基準を用いることで容易に解くことが可能であることを提案いたしました。また、lasso や SCAD を正則化項にもつ場合に対しても同様に応用可能であることを示しました。今後は、回帰係数に制約条件を課す手法等に対して拡張し、シミュレーションによる検討を実施していくことを考えています。

研究は日々の積み重ねや試行錯誤で少しずつ前に進めるものであり、今回の受賞は自身の研究活動への大きな励みになりました。今後も一層の努力を重ねていく所存ですので、ご指導ご鞭撻の程、よろしくお願い申し上げます。この度は誠に有難うございました。

学会からのお知らせ

日本計算機統計学会 2021 年度 第 1 回 理事会議事録

■日時: 2021 年 4 月 17 日(土) 15:30~17:30

■場所: オンラインにより実施

■出席者 (敬称略, 会長・副会長以外は五十音順):

小木しのぶ (会長: 議長),

山本義郎, 宿久 洋, 渡辺敏彦 (副会長),

足立浩平, 阿部貴行, 飯塚誠也, 石岡文生, 大石雅彦,

大草孝介, 大槻成章, 岡田謙介, 小田牧子, 川崎玉恵,

栗原考次, 酒折文武, 坂本 亘, 桜井裕仁, 下川敏雄, 杉本知之, 竹内光悦, 土田 潤, 富田 誠, 橋口博樹, 藤澤正樹, 星野崇宏, 丸尾和司, 水田正弘, 村上秀俊, 森 裕一, 山田隆行, 山本由和

■委任状提出:

河合統介, 栗林和彦, 小泉和之, 弘新太郎, 藤野友和, 山本紘司

●定足数の確認等

理事会定足数 26 名(3分の2以上の出席)に対し, 出席者と委任状提出者数の合計が定足数を上回っていることが確認された。

●報告事項(2020 年度分)

◆1. 2020 年度事業報告・業務報告について

阿部 庶務理事より, 2020 年度事業報告・業務報告について, 説明が行われた。

◆2. 2020 年度決算報告について

小田 19-20 年度会計理事より, 2020 年度決算報告について, 説明が行われた。

◆3. 2020 年度監査報告について

阿部 庶務理事より, 2021 年 3 月 16 日に行われた 2020 年度監査について, 報告が行われた。

●審議事項

◆1. 会員の異動について

大草 庶務理事より, 会員の異動について報告があり, 原案の通り承認された。

◆2. 2021 年度事業計画(案)について

大草 庶務理事より, 2021 年度事業計画(案)について説明があり, 審議の結果, 原案通り承認され, 評議員会に上程することとなった。

◆3. 2021 年度予算(案)について

石岡 会計理事より, 2021 年度予算(案)について, 例年との相違点(和文誌や新型コロナウイルス対策に関連した費用など)を中心に説明がなされた。審議の結果, 原案通り承認され, 評議員会に上程することとなった。

◆4. 第 36 回(2022 年度)大会について

山本 副会長より, 第 36 回大会を, 2022 年に兵頭 実行委員長により愛媛県で開催する旨の提案があり, 審議の結果, 原案通り承認され, 評議員会に上程することとなった。

◆5. フェローの認定について

山本 副会長(フェロー審査委員会委員長)より, フェロー候補者の紹介がなされ, 審議の結果, 次の 1 名にフェローの称号を授与することを認定した。

山縣 清壮 氏((株)クレハ)

◆6. その他

・新入会員の大会・シンポジウム参加費免除に関する特例措置について

山本 副会長より, 昨年度入会の新入会員について, 新型コロナウイルス感染拡大の影響により参加費免除の特典を利用できなかったため, 使用期限を 2020 年 12 月 31 日から 2021 年 12 月 31 日に延長して利用できるようにする特例措置が提案され, 審議の結果, 原案どおり承認された。

●報告事項

◆1. 和文誌について

富田 和文誌編集理事より, 和文誌の編集状況について報告がなされ, 現在の投稿状況や発行遅延に関する対応状況, また現在募集しているスポーツ統計の特集について報告がなされた。

◆2. 欧文誌について

橋口 欧文誌編集理事より, JJSD は Volume3 Issue1 および Volume3 Issue2 が予定通りに発行され, 現在の論文発行数や投稿状況などが報告された。

◆3. 広報活動について

飯塚 広報理事より, 広報活動について報告が行われた。

◆4. 渉外活動について

竹内 渉外理事より, 渉外活動について報告が行われた。

◆5. 第 35 回大会・第 34 回総会について

藤澤 企画(大会担当)理事(同大会実行委員長)より, 第 35 回大会の準備状況が説明され, ハイブリッド形式での準備状況などについて報告がなされた。

◆6. 第 35 回シンポジウムについて

星野 企画(大会担当)理事(同シンポジウム実行委員長)より, 2021 年 11 月に慶應義塾大学で開催される第 35 回シンポジウムの準備状況について報告が行われた。新型コロナウイルスに関する対策費用に関しては, 学会の方でサポートを行うことが確認された。

◆7. 2021 年度 計算機統計セミナーについて

藤澤 企画理事より, 2021 年度の計算機統計セミナーの開催計画の説明がなされた。

◆8. 若手セミナーについて

丸尾 若手奨励理事より, 2021 年 9 月に長崎県で開催される若手セミナーについて, 準備状況について説明が行われた。

◆9. 2021 年度統計関連学会連合大会について

小木 会長より, 2021 年度連合大会の開催日程等について

説明が行われた。併せて、本会選出のプログラム委員を中心に企画セッションを申し込んだ旨の報告が行われた。

◆10. 2020 年度学会賞について

山本 副会長(学会賞審査委員会委員長)より、2020 年度学会賞を以下の通り授与することとなった旨、報告が行われた。

[日本計算機統計学会賞] 石橋 雄一 氏
((株) スタットラボ)
水田 正弘 氏 (北海道大学)

[優秀賞] なし

[論文賞] 高橋 佳苗 氏
(大阪市立大学大学院医学研究科)

[ソフトウェア賞] なし

[奨励賞] 石井 晶 氏 (東京理科大学工学部)

[貢献賞] なし

日本計算機統計学会 第84回(2021年度, 第1回)評議員会議事録

■議長: 小木しのぶ (会長, 株式会社NTT データ数理システム)

■日時: 6月2日(水) 15:30~17:30

■場所: 大会会場および Zoom でのハイブリッド実施

■出席者 (敬称略, 会長・副会長以外は五十音順):

小木しのぶ (会長: 議長),
山本義郎, 宿久 洋, 渡辺敏彦 (副会長),
足立浩平, 阿部貴行, 飯塚誠也, 石岡文生,
石橋雄一, 五十川直樹, 大石雅彦, 大草孝介,
岡田謙介, 河合統介, 栗原考次, 坂本 亘,
佐藤耕一, 塩谷順彦, 篠津和夫, 下川敏雄,
瀬尾 隆, 竹内光悦, 田澤 司, 道家暎幸,
富田 誠, 中川重和, 永久保太士, 藤澤正樹,
丸尾和司, 山縣清壯, 米山昭成

■委任状提出 (何れも議長へ委任)

鎌倉稔成, 久保田貴文, 橋口博樹, 藤野友和

■陪席理事 (事前参加登録があり, かつ評議員と重複していない)

大槻成章, 小田牧子, 川崎玉恵, 桜井裕仁,
弘新太郎, 丸尾和司, 村上秀俊, 山田隆行

●定足数の確認

評議員総数 36 名 (会長・副会長含む), 定足数 19 名 (>36/2) に対し, 出席者と委任状提出者数の合計が定足数を上回っていることが確認された。

●審議事項 (2020 年度分)

◆1. 2020 年度事業報告・業務報告について

阿部 庶務理事より 2020 年度事業報告および業務報告がなされた。

◆2. 2020 年度決算報告について

小田 2019-2020 年度会計理事より 2020 年度決算報告について報告がなされた。

◆3. 2020 年度監査報告について

大槻 監事より 2020 年度の監査結果について報告がなされた。

●報告事項

◆1. 2020 年度第 1 回理事会について

小木 会長より 2020 年度第 1 回理事会の内容について報告がなされた。

◆2. 会員の異動について

大草 庶務理事より 会員の異動情報について報告がなされた。

◆3. 和文誌について

富田 和文誌編集理事より 和文誌の編集状況および、発行状況遅延の正常化に関する施策, 特集号の企画について報告がなされた。

◆4. 欧文誌 (JJSD) について

宿久 欧文紙編集理事より JJSD の発行・編集状況について報告がなされた。

◆5. 広報活動について

飯塚 広報理事より ニュースレターおよびメールニュースの発行状況, Web サイトの管理状況, SSL 化の対応状況について報告がなされた。

◆6. 渉外活動について

竹内 渉外理事より 渉外活動の状況について報告がなされた。

◆7. 第 35 回シンポジウムについて

星野 第 35 回シンポジウム実行委員長の代理で大草 庶務理事より 第 35 回シンポジウムの準備状況について報告がなされた。

◆8. 2021 年度 計算機統計セミナーについて

藤澤 企画理事より 2021 年度 計算機統計セミナーの準備状況について報告がなされた。

◆9. 若手セミナーについて

丸尾 若手奨励理事より 2021 年度の若手セミナーの準備状況について、報告がなされた。新型コロナウイルスの状況を鑑み、また連合大会が完全オンラインとなったことから、若手

セミナーもオンラインで実施予定である旨報告がなされた。

◆10. 2020 年度学会賞について

山本 学会賞審査委員会委員長より 2020 年度学会賞受賞者について、以下の通り授与することになった旨、報告がなされた。

――

[日本計算機統計学会賞] 石橋 雄一 氏((株)スタットラボ)
水田 正弘 氏(北海道大学)

[優秀賞] なし

[論文賞] 高橋 佳苗 氏(大阪市立大学大学院医学研究科)

[ソフトウェア賞] なし

[奨励賞] 石井 晶 氏(東京理科大学理工学部)

[貢献賞] なし

――

◆11. フェローの認定について

山本 フェロー審査委員会委員長より、審議の結果、次の 1 名にフェローの称号を授与することを認定した旨、報告がなされた。

――

山縣 清壮 氏((株)クレハ)

――

◆12. 統計関連学会連合理事会からの報告ならびに2021 年度統計関連学会連合大会について

小木 会長より連合大会については、今年度も日本計算機統計学会は主催であり、新型コロナウイルスの影響を受け、連合大会(2021 年 9 月 5 日(日)～9 日(木))は完全オンラインでの実施になった旨報告がなされた。また、本学会の企画セッションについて、本会選出プログラム委員の川野先生、兵頭先生で検討し、「高次元データおよび高次元時系列データにおける統計的推測」というタイトルで、すでに申し込み済みであるとの情報が来ている旨報告がなされた。

◆13. その他

特になし

●審議事項

◆1. 名誉会員の推薦について

大草 庶務理事より名誉会員の推薦状況について、後藤昌司 氏、松原義弘 氏の 2 名について推薦が来ている旨報告がなされ、審議の結果、名誉会員の認定が承認された。

◆2. 会費長期未納会員への対応について

大草 庶務理事より会費長期未納会員の報告がなされ、審議の結果 9 名の除名、1 名の退会が承認された。また、海外会員の会費長期未納会員については、慣例で退会扱いとし

ていることが、確認された。

◆3. 2021 年度事業計画(案)について

大草 庶務理事より 2021 年度事業計画(案)について報告がなされ、審議の結果、承認された。

◆4. スタディー・グループについて

大草 庶務理事よりスタディー・グループの申請状況について報告がなされ、

――

【継続】

・IR(Institutional Research)のための統計的モデルに関する研究(継続)

(2019-2021 年度) (福岡女子大学 藤野友和)

・機械学習による効果とリスクの抽出とその評価(継続)

(2020-2021 年度) (大日本住友製薬株式会社 中村将俊)

【新規】

・データ解析の解析事例の公開と解析ソフトウェアの利用方法に関する研究(継続)

(2021-2023 年度) (東海大学 山本義郎)

――

の計 3 件について活動が承認された。

◆5. 2021 年度予算(案)について

石岡 会計理事より 2021 年度予算(案)について報告がなされ、審議の結果、承認された。

◆6. 第 36 回(2022 年度)大会・第 36 回総会について

小木 会長からより第 36 回(2022 年度)大会・第 36 回総会について、

【会場】愛媛県

【日程】2022 年 5 月下旬(評議員会は期間前日)

【実行委員長】兵頭 昌 氏(神奈川大学)

とする形が提案され、審議の結果、承認された。またこれに併せて、兵頭 昌 氏を大会担当の企画理事とすることが承認された。また、新型コロナウイルスによる緊急事態宣言等の影響で現地調査ができておらず、開催地が変わる可能性があり、その場合は会員に速やかに連絡する旨が報告された。

◆7. 第 35 回総会について

大草 庶務理事より 6 月 3 日(木)に実施予定の第 35 回総会の議題について、報告がなされ、審議の結果、承認された。

◆8. その他

1) 山本 副会長より新入会員の大会・シンポジウム参加費免除に関する特例措置について報告がなされ、審議の結果、承認された。

2) 小木 会長より第35回総会の参加URLについて、例年オンラインでの開催の際は、会員資格の有無について確認していないことから、大会参加者へのURL配信が提案され、審議の結果、承認された。また、審議事項があることから、非会員については参加の際に名前に【非会員】と記載していただく対応をとることとなった。

●連絡事項

◆1. 第35回大会について

藤澤 第35回大会実行委員長より、第35回大会の状況について共有がなされた。

日本計算機統計学会 第35回総会議事録

■日時:6月3日(木) 17:00~18:30

■場所:大会会場およびオンラインのハイブリッドにより実施

●開会の辞

大草 庶務理事より開会の辞がなされた。また、ハイブリッド開催であり非会員も参加が可能となっていることから、審議事項への対応のため、非会員については名前に【非会員】と記載をお願いしたい旨、告知がなされた。

●議長選出

中川重和氏が総会議長として選出され、承認された。

●会長挨拶

小木 会長より会長就任の挨拶が行われた。

●議事

◆1. 2020年度事業報告

渡辺 副会長より2020年度事業報告が行われ、審議の結果、承認された。

◆2. 2020年度決算報告

小田 19-20年度会計理事より2020年度決算報告が行われ、審議の結果、承認された。

◆3. 2020年度理事の業務監査および会計監査報告

南 監事より2020年度理事の業務監査および会計監査結果について、特に問題は認められなかったことが報告された。また以下の提言がなされた。

――

コロナ禍の困難な状況下において、安定的に事業を継続できていると考えられる。コロナ禍による特殊な状況は今後2年ぐらい継続する可能性があり、当学会でもそれらを織り込んだ形での事業計画の立案(例えば学会でビデオ会議のライセンスを購入するなど)を望みます。また、かねてより指摘のある和文誌については、発行ペースの健全化や実質的な発行計画に基づく予算の立案などについて、より具体的な対応

を検討されることを望みます。

――

上記の監査結果について審議の結果、承認された。

◆4. 理事会・評議員会報告

小木 会長より理事会は2021年4月17日、ネット理事会は2020年10月30日、評議員会は第83回を2020年11月29日、第84回を2021年6月2日にそれぞれ開催した旨、報告がなされた。

◆5. 2021年度事業計画(理事の承認を含む)

渡辺 副会長から、2021年度事業計画および21-22年度理事の体制について報告がなされ、審議の結果、承認された。

◆6. 2021年度予算

石岡 会計理事より2021年度予算について報告がなされ、審議の結果、承認された。

◆7. 2022年度(第36回)総会の開催地の決定

宿久 副会長より、第36回総会を2022年5月下旬に、愛媛県で開催予定の日本計算機統計学会第36回大会中に実施予定である旨、報告がなされ、審議の結果承認された。また、新型コロナウイルスの影響で現地調査ができておらず、開催地が変わる可能性があり、その場合は会員に速やかに連絡する旨も報告された。

◆8. 名誉会員の推薦について

大草 庶務理事より名誉会員の推薦状況について、後藤昌司氏、松原義弘氏の2名について推薦が来ている旨報告がなされ、審議の結果、名誉会員の認定が承認された。

◆9. その他の報告事項

(1) 和文誌編集委員会報告

山田 和文誌編集理事より和文誌の編集状況および、発行状況遅延の正常化に関する施策、特集号の企画について報告がなされた。

(2) 欧文誌編集委員会報告

宿久 欧文紙編集理事よりJJSDの発行・編集状況について報告がなされた。

(3) 広報理事報告

飯塚 広報理事よりニューズレターおよびメールニュースの発行状況、Webサイトの管理状況、SSL化の対応状況について報告がなされた。

(4) 渉外理事報告

竹内 渉外理事より渉外活動の状況について報告がなされた。

(5) スタディー・グループについて

大草 庶務理事よりスタディー・グループについて、

【継続】

・IR (Institutional Research) のための統計的モデルに関する研究(継続)

(2019-2021 年度) (福岡女子大学 藤野友和)

・機械学習による効果とリスクの抽出とその評価(継続)

(2020-2021 年度) (大日本住友製薬株式会社 中村将俊)

【新規】

・データ解析の解析事例の公開と解析ソフトウェアの利用方法に関する研究(継続)

(2021-2023 年度) (東海大学 山本義郎)

の計 3 件について活動が承認された旨、報告がなされた。

(6) 第 35 回シンポジウムについて

星野 第 35 回シンポジウム実行委員長の代理で大草 庶務理事より第 35 回シンポジウムの準備状況について報告がなされた。

(7) 2021 年度 計算機統計セミナーについて

藤澤 企画理事より 2021 年度 計算機統計セミナーの準備状況について報告がなされた。

(8) 若手セミナーについて

丸尾 若手奨励理事より 2021 年度の若手セミナーの準備状況について、報告がなされた。新型コロナウイルスの状況を鑑み、また連合大会が完全オンラインとなったことから、若手セミナーもオンラインで実施予定である旨報告がなされた。

(9) 学会賞審査委員会報告

山本 学会賞審査委員会委員長より 2020 年度学会賞受賞者について、以下の通り授与することになった旨、報告がなされた。

【日本計算機統計学会賞】 石橋 雄一 氏((株)スタットラボ)

水田 正弘 氏(北海道大学)

【優秀賞】 なし

【論文賞】 高橋 佳苗 氏(大阪市立大学大学院医学研究科)

【ソフトウェア賞】 なし

【奨励賞】 石井 晶 氏(東京理科大学理工学部)

【貢献賞】 なし

(10) フェロー審査委員会報告

山本 フェロー審査委員会委員長より、審議の結果、次の 1 名にフェローの称号を授与することを認定した旨、報告がなされた。

山縣 清壮 氏((株)クレハ)

(11) その他

特になし

●学会賞授与

・学会賞

【日本計算機統計学会賞】 石橋 雄一 氏

((株)スタットラボ)

水田 正弘 氏(北海道大学)

【論文賞】 高橋 佳苗 氏

(大阪市立大学大学院医学研究科)

【奨励賞】 石井 晶 氏(東京理科大学理工学部)

の 4 名に学会賞の授与が行われた。賞状と記念品は郵送により贈呈が行われた。

・フェロー

山縣 清壮 氏((株)クレハ)にフェロー認定書の授与が行われた。フェロー認定書原本については後日郵送された。

・学生研究発表賞

丸尾 若手奨励理事より第 35 回大会学生研究発表賞について、審査員および学会賞審査委員会での審議の結果、以下の 4 名に授与が決定された旨、報告がなされ、学生研究発表賞の授与が行われた。賞状原本については後日郵送された。

岡 知樹 氏(東京大学)

郷 洋文 氏(横浜市立大学)

田尻 涼 氏(佐賀大学)

平石 麻友 氏(同志社大学)

新入会員(敬称略, 申請日順)

【正会員】

【学生会員】

【国外】

- The 14th International Conference of the ERCIM WG on Computational and Methodological Statistics (CMStatistics 2021)

会場: King's College London, UK + online (hybrid)

日程: 2021年12月18日(土) ~ 20日(月)

<http://www.cmstatistics.org/CMStatistics2021/>

- 24th International Conference on Computational Statistics (Compstat 2022)

会場: University of Bologna, Italy

日程: 2022年8月23日(火) ~ 26日(金)

<http://www.compstat2022.org/>

◆2021年度計算機統計セミナー開催のお知らせ

以下のような計画で実施する予定です。

- Python 準備講座「はじめてのPython」

主催: 日本計算機統計学会

日時: 12月16日(木) 10:00 ~ 12:00

実施形態: オンライン(ZOOM)

講師: 谷岡 健資 先生(同志社大学)

詳細: Pythonの使用方法を説明し、統計解析を実施する前の準備として必要なデータ・ハンドリングの技術を身につけていただきます。

- 第1回「Pythonを利用した統計解析レポート作成[実習付き]」

主催: 日本計算機統計学会

日時: 12月16日(木) 14:00 ~ 16:30

実施形態: オンライン(ZOOM)

講師: 谷岡 健資 先生(同志社大学)

詳細: 本セミナーでは、Pythonを利用してデータ解析や集計方法、レポートの自動作成方法についてとり扱う。とくに、定期的にレポートを作成するような場合にレポート自動化が有効であること等を実際のデータを用いて説明する予定である。

- 第2回「Pythonを用いた統計解析、機械学習の演習」

主催: 日本計算機統計学会

日時: 12月19日(日) 13:00~16:30

実施形態: オンライン

講師: 大草 孝介 先生(横浜市立大学)

詳細: Pythonを用いた実際の統計解析、機械学習の手法について、予測・分類の2つの観点から学んでいきます。演習では回帰分析、分類木、深層学習

現会員数(令和3年4月12日現在)

正会員数(国内・海外)	488
学生会員	65
賛助会員	22
合計	575

学会・研究会のお知らせ

【開催予定一覧】

【国内】

- 日本計算機統計学会 第35回シンポジウム

会場: 慶應義塾大学 三田キャンパス(東京都港区) + オンライン(ハイブリッド開催)

日程: 2021年11月27日(土) ~ 28日(日)

<http://jcs.jp/conf/sympo35/>

- IASC-ARS2022

会場: 同志社大学今出川キャンパス(京都府京都市) + オンライン(ハイブリッド開催)

日程: 2022年2月21日(月)~24日(木)

<https://iasc-ars2022.org/>

などについて演習を通じて体験していただく予定です。

和文誌編集委員会からのお知らせ

◆特集「災害関連データ解析」の論文募集について

和文誌編集委員会では、和文誌『計算機統計学』における特集として「災害関連データ解析」に関する論文投稿を受け付けます。

日本に限らず、地震・津波・豪雨など自然災害による被害は世界中で増加傾向にあり、災害発生の予防、発生時の被害予測、発生後の被害軽減などにおいて、データを活用した研究が多く見られるようになり、計算機統計学がこれらの分野に果たす役割が期待されています。日本計算機統計学会では、2019年度の大会で「空間データと災害の統計モデル」、2020年度のシンポジウムで「災害関連データ解析」の特別セッションが実施されるなど、この研究テーマに関する計算機統計学分野からの取り組みについて積極的に議論を行ってきました。

本特集では、災害発生の予防、発生時の被害予測、発生後の被害軽減などに関する事例を広く「災害関連データ」として

- ・「災害関連データ」を分析するための新たな分析法の提案
- ・「災害関連データ」からの実証分析
- ・「災害関連データ」を収集する技術の共有
- ・「災害関連データ」を活用した統計教育

など、「災害関連データ解析」への計算機統計学の貢献を内容とする投稿を募集します。多くの投稿が寄せられますことを期待します。

なお、本特集の投稿論文の採否は、通常の査読プロセスにより決定されます。

投稿期限：2021年12月20日

募集する投稿区分：すべて(原著論文、総合報告、ソフトウェア記事)

投稿区分に関する詳細は、投稿規定を参照ください。

発行：2022年10月(予定)

原稿送付先：論文投稿・査読システム

<https://www.editorialmanager.com/bcsj/>

オーガナイザー：鎌倉稔成(中央大学)・大草孝介(横浜市立大学)

本特集に関する問い合わせ先：wabun-saigai@jscs.jp

欧文誌編集委員会からのお知らせ

◆JJSD からのお知らせ

JJSD(Japanese Journal of Statistics and Data Science)がESCI(Emerging Sources Citation Index)とScopusから参照されるようになりました。詳しくはJJSDの「Good News: JJSD has been selected for inclusion in the ESCI and Scopus!」

<https://www.springer.com/journal/42081/updates/19546816>をご覧ください。

広報委員会からのお知らせ

◆ニューズレターでの広告掲載について

本ニューズレターでは広告の掲載を募集しております。広告掲載をご希望の会員は、渉外理事(shougai@jscs.or.jp)までお問い合わせください。なお、ニューズレター以外の媒体(和文誌および計算機統計セミナー関連)の広告掲載に関するお申込・お問い合わせも、上記のe-mail アドレスにて随時受け付けています。

また、学会ウェブページ上(<http://www.jscs.or.jp/>)において、バナー広告による広告掲載を行っております。こちらにつきましても渉外理事までお問い合わせください。なお、大会およびシンポジウムについては各大会の事務局へお申し込みください。

事務局からのお知らせ

◆会費納入のお願い

会費のお支払いは、下記の口座への振り込みのほか、クレジットカード払いも可能です。詳細は会費振込用紙と一緒に送付した「会費納入のお願い」をご覧ください。会費の納入が滞ると学会運営に大きく影響しますので、忘れずに納入していただきますようお願いいたします。

なお、複数年にわたって滞納されますと、評議員会の議を経て除名されることがありますので、ご注意ください。

【口座名義両方とも】日本計算機統計学会

《ゆうちょ銀行》口座番号:00180-0-537374

《銀行》三菱UFJ銀行 青山支店

普通口座: 5284324

◆高齢者会員の会費割引について

本会では、主として退職された会員を対象に会費割引の制度を設けています。

- (1) 60歳の誕生日を過ぎていること
- (2) 会誌(和文誌・欧文誌)の配布を希望しないこと

の両方を満たす場合、お申出により会費が割引(7,000円→2,000円)となります。会費割引には評議員会での承認が必要となりますので、ご希望の会員はお早めに事務局にお申出ください。

◆2021年度の新入会員の特典について

2021年度に学生会員または賛助会員として新規に入会された新入会員は、入会特典を受けることができます。統計科学に関する研究を行っている学生の方がお近くにいらっしゃいましたら、ぜひこの機会に入会をお誘いください。

また、学会では賛助会員のために様々な形で計算機統計学に関する情報の提供・交換の場を設けています。会員の皆様には、統計科学とその周辺領域、コンピュータなどに関係のある企業・団体をお誘い、あるいはご紹介くださいますようお願いいたします。

入会特典の詳細につきましては、学会ウェブページの
<http://jscs.jp/入会のお誘い/新入会員特典>
 をご覧ください。

◆会員情報の変更について

所属変更等をされた会員の方は、お手数とは存じますが、学会への変更の届出を忘れずをお願いします。届出を忘れると郵便などによる学会からの連絡が届かなくなってしまうます。学生会員の方で今年就職をされた方は、今年度から正会員となりますので、必ず新しい所属・連絡先をお知らせください。

会員情報に変更のある会員の方は、学会事務局 (office@jscs.or.jp) 宛に電子メールで変更点をお知らせください。

ご理解、ご協力をいただけますよう、お願い致します。

◆休会制度、種別変更猶予制度について

本会では、休会制度および種別変更猶予制度を設けています。

「休会制度」は、会員に特段の事情が認められる場合、理事会の承認を経た上で、会員資格の停止とともに、会費を徴収しないことができることとした制度です。

「種別変更猶予制度」は、学生会員が学生としての身分を失い正会員に移行する際に、経済的事由などにより正会員として学会に所属することが著しく困難であると理事会で認められた場合、引き続き「学生会員」として所属できることとした制度です。

本制度は、年度単位で適用されます。希望される会員は、事務局までご照会ください。なお、本制度に関わる申し合わせは、

<http://jscs.jp/face/rules/kyukai.html>

からご覧いただけます。

広報委員会

(五十音順、*印は理事、+印は今号編集担当)

飯塚 誠也*(岡山大学)
 石岡 文生(岡山大学)
 大草 孝介(横浜市立大学)
 川崎 玉恵*(東京理科大学)
 黒沢 健+(東京理科大学)
 小泉 和之*(横浜市立大学)
 坂本 亘(岡山大学)
 下川 朝有+(東京理科大学)
 姫野 哲人+(滋賀大学)
 弘 新太郎*(ファイザー(株))
 藤野 友和*(福岡女子大学)
 丸尾 和司(筑波大学)
 山田 実俊(東海大学)
 山本 由和(徳島文理大学)
 山本 義郎(東海大学)

	日本計算機統計学会への入会のお誘い	
--	-------------------	--

日本計算機統計学会事務局

日本計算機統計学会では、随時新入会員を募集しております。会員の皆様の近隣で計算機統計学に興味のある方がいらっしゃいましたら是非入会をお勧めください。個人会員、賛助会員ともに入会いただくと、さまざまな特典がありますが、2021 年度の入会については、学生会員および賛助会員に更なる特典があります。

2021 年度の入会特典について

【期間】 2021 年度 (2021 年 1 月 1 日～12 月 31 日)

【対象】 対象期間内に新規に学生会員または賛助会員として入会申込を行い、初年度年会費を納入した新入会員
(初年度年会費の納入が確認された時点で特典の権利が発生します)

<特典>

- 新規学生会員の大会またはシンポジウムの参加費無料(1 回限り)
- 新規賛助会員の学会発行物への広告を口数に応じて無料掲載

入会特典についての詳しい内容は学会ウェブページをご覧ください。

<http://jscs.jp/入会のお誘い/新入会員特典/>

<お問合せ・連絡先>

〒101-0051 東京都千代田区神田神保町 3-6 能楽書林ビル 5F
(公財)統計情報研究開発センター内 日本計算機統計学会事務局
TEL:03-3234-7580 (平日 9:30～17:00)
FAX:03-3234-7580
E-mail: office@jscs.or.jp
URL: <http://www.jscs.jp/>